

平成20年度 学校経営計画に対する最終報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果		分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策)	
1 生徒と教師の信頼関係に立脚し、意欲関心を高める授業改善の推進。	① 生徒による授業評価を実施し、指導法の改善や教材の研究を行う。	生徒による授業評価を授業改善に活かしている。 A 良くあてはまる B まああてはまる C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない	生徒 A+B 70%以上 アンケートが行われている 前期 79% 後期 74% 評価 ○	職員 A+B 70%以上 前期 76% 後期 80% 評価 ○	・生徒に対しての、「アンケートが行われている。」という項目は、年2回必ず行うので、もう不要である。「生徒自身に関する集計結果を見て改善しようとしている。」などに変更したほうがよい。 ・商業科独自の目標設定等を取り入れた評価票を作成し、定期的に評価を実施したい。(商業)	
	② 習熟度別学習の指導法を研究することにより、より効果的な習熟度別学習を実施する。	習熟度別学習は学力向上に効果がある。 A 良くあてはまる B まああてはまる C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない	生徒 A+B 50%以上 前期 40% 後期 35% 評価 ×	職員 A+B 50%以上 前期 72% 後期 76% 評価 ○	・生徒と職員との意識のずれが見られる。生徒に習熟度別授業に対する説明をもっと詳しくしたうえで、アンケートをとる必要がある。また、質問の文章に、「少人数授業」についても追加した方がよい。 ・習熟度別学習は学力の向上と、基礎・基本を身につける上で欠かせない学習体制である。(商業)	
	③	節または章毎に小テストの実施や課題等を与えている A 良くあてはまる B まああてはまる C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない	生徒 A+B 50%以上 小テスト 前期 36% 後期 23% 評価 ×	保護者家庭の状況 家庭で学習している 課題 前期 41% 後期 23% 評価 ×	職員 A+B 50%以上 前期 50% 後期 62% 評価 ○	・生徒と職員の認識のずれが見られる。職員が実施しているのだから、生徒がもっと意識できるように工夫したほうがよい。さらに小テストや課題を増やす必要もある。 ・小テストの実施は少ないが、各節や章毎に「まとめ」の問題を実施し、生徒の理解度を把握するようにしている。(商業)
	④ 朝の10分間読書において、各クラスに『珠実の100冊』を含めた学級文庫を設置し、読書に関心を持たせ、定着を図る。	本を借りたことがある。(珠実の100冊を含めて) A 10冊以上 B 5冊以上 C 3冊以上 D 0冊	生徒 5冊以上 前期 3% 後期 1% 評価 ×	家庭で読書をしている 前期 29% 後期 28%	職員 A+B 50%以上 本を借りる指導をした。 前期 33% 後期 34%	・図書の利用状況は生徒数から言えば、貸出数は増加している。また、生徒玄関には図書コーナーを設置し、新着図書の紹介や調べ学習の作品展示などを行い、さらに展示は季節感を出せるように配慮した。今年度はクラスに学級文庫(20冊程度)設置した。来年度は生徒が借りたくなるような本をアンケートから調査し、学級文庫に追加するなど、冊数を増やし生徒の関心を持たせることで貸出数を増やす。
	⑤ 朝の10分間読書の時間を利用し、『民話の読み聞かせ』を実施し、静かに聴く態度を身に付ける。	民話に興味を持って静かに聴くことができる。 A 良くあてはまる B まああてはまる C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない	生徒 A+B 80%以上 前期 38% 後期 42% 評価 ×	職員 A+B 80%以上 前期 77% 後期 75% 評価 ×	・民話の読み聞かせについては担任の先生の協力もあり無事終わることができた。内容については6～7分程度の時間でストーリー展開出来る題材を選んだが、思ったような結果ではなかった。来年度は民話に拘らず昼休み時間中に生徒が興味を持ちそうな内容で放送し、生徒に感心を持たせ、また、生徒に声を出して読ませることで話す力等の育成を図る取り組みをする。	
	⑥ 公開授業や、研究授業を積極的にを行い、授業改善を図る。	公開・研究授業を行った回数が、 A 4回以上 B 3回 C 2回 D 1回以下	生徒 A+B 70%以上 公開授業が行われた 前期 46% 後期 60%	職員 3回以上 が70%以上 研究授業 前期 20% 後期 47% 評価 ×	・全職員が公開授業は年2回実施しているので、もう1回は、研究授業である。今年度は、全教科で研究授業が実施されたが、全職員ではなかったのが、評価は×になったが、来年度は、全職員が研究授業をするという目標にして、取り組めば、達成できると思う。 ・公開授業については、もう少し参観者が増える取り組みをしなければならぬ。 ・科の会議において、全員、公開授業や研究授業を行うことにしている。(商業)	

学校関係者評価委員会の評価	(1) 取組について 取組については①から⑥までは、「良い」または「まあ良い」と評価された。 (2) 各項目毎の評価など ①アンケートの結果を授業に生かし続けて欲しい。継続して取り組んで欲しい。 ②について、生徒との差は生徒自身の感情の差である。習熟度を向上させるために効果的に継続して欲しい。ただ、下のクラスの生徒が劣等感を持たないようにして欲しい。 ③節または章ごとに実施される小テストについては職員全体の意欲不足であり、全科目での実施を希望する。また、課題を出して家庭学習の時間を増やしてほしい。 ④本を読ませるとい指導を継続して行い、休み時間など利用し、アピールすることが必要である。また、図書の本に拘らず、生徒が自由に読めるようにし、知識を持たせるようにして欲しい。 ⑤今後の読み聞かせの取組について、長い目でみて継続した取組にして欲しい。また、地域の人の読み聞かせも取り入れていけばよい。 ⑥継続した取組として長い目で努力してもらいたい。公開授業は平日であり、保護者が来れない日が多い。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	学校関係者評価委員会から出された意見では概ね適切なものであり、それを踏まえつつさらなる改善をはかっていきたい。小テストや家庭学習課題については、指摘された通りであり、教員の努力不足と考える。習熟度別学習の効果や公開・研究授業の回数等については生徒に評価させることの適否を含めて検討し直す必要がある。

重点目標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果			分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策)
2	お互いを思いやる心を育む 生徒会活動とたくましい体力づくりの推進。	① 高校生らしい身だしなみと基本的な生活習慣を確実に身につける。	服装や髪型などでほとんど注意を受けず、きちんとした身だしなみができている生徒の割合が A 90%以上である B 70%以上である C 50%以上である D 30%以上である	生徒 A+B 70%以上 前期 62% 後期 73% 評価 ○	保護者 A+B 70%以上 前期 55% 後期 61% 評価 ×	職員 A+B 70%以上 前期 56% 後期 20% 評価 ×	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の現状は、職員の結果に近いと考える。保護者の結果は、自分の子弟に対する日頃の注視が低いことを物語っているのではない。一方、生徒の受け止めは、自分の課題が見えず、問題意識の欠如やばき違えた自己表現からくるのではないか。(男子の腰パン、女子のスカート丈)</li> <li>身だしなみの指導だけでは限界がある。職員全体の取り組みが不可欠であるが、進路実現を図るうえから、日々の学校生活での集中、家庭での生活を保護者と協同して取り組むことが必要と考える。(生徒指導)</li> </ul>
			子どもの服装や髪型などに注意を払い、子どもの身だしなみはきちんとしている。 A 90%以上である B 70%以上である C 50%以上である D 30%以上である	生徒 家庭で注意される A+B 70%以上 注意される 前期 28% 後期 20%	保護者 A+B 70%以上 前期 64% 後期 63% 評価 ×		<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭で注意されると回答している生徒がわずか20%であり、服装をはじめ家庭での生活や家庭学習、携帯電話の使用も含めて、保護者の関心や教育力が非常に低いと分析できる。</li> <li>4月にも、保護者の集会を開き、進路を含めた現状と今後の課題について理解と綿密な連携が必要と考える。(生徒指導)</li> </ul>
		③ 登校指導や髪型・服装検査及び再検査・再々検査には、積極的に関わってきている教師の割合が。 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 60%以上である	生徒 A+B 80%以上 前期 51% 後期 58% 評価 ×		職員 A+B 80%以上 前期 41% 後期 55% 評価 ×	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒と職員の%がほぼ等しく、指導の現状を示していると思う。</li> <li>全職員が、生徒の日々充実した生活を追求する視点から捉え直すことが必要と考える。</li> <li>髪型や服装・身だしなみはその学校の指導力・教育力のバロメーターである。求人に来校する人事担当者は、このことに最も関心を持ち、他校と比較するのではないか。身だしなみは一朝一夕には改善しないこそ、早急な対処が必要と考える。(生徒指導)</li> </ul>	
			生徒の服装など身だしなみの指導には、意識して関わっている。 A 90%以上である B 70%以上である C 50%以上である D 30%以上である		保護者 A+B 70%以上 前期 55% 後期 54% 評価	職員 A+B 70%以上 前期 89% 後期 81% 評価 ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の評価は、極めて甘いように思える。</li> <li>職員室に掲示している指導チェック表への記入者は、生徒指導を含めて4人のみという現状にある。全職員の対応が必要である。(生徒指導)</li> </ul>
		⑤ 職員・生徒が環境問題を意識し、環境保全・美化活動に積極的に取り組むことが出来る。	清掃活動を協力しながら積極的に行っている。 A 良くあてはまる B まああてはまる C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない			職員 A+B 70%以上 前期 94% 後期 85% 評価 ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>厚生：清掃活動においては、全体的に積極的に取り組んでいる様子が伺えます。</li> </ul>
			⑥ 学校生活における節電・節水・ゴミ削減・リサイクル等の環境保全活動に積極的に取り組んでいる。 A 良くあてはまる B まああてはまる C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない	生徒 A+B 70%以上 前期 37% 後期 40% 評価 ×	保護者 A+B 70%以上 前期 65% 後期 58% 評価 ×	職員 A+B 70%以上 前期 78% 後期 81% 評価 ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>厚生：呼びかけだけでなく、それぞれが環境保全活動に関わっているという実感のもてる取り組みが必要なのは、市での取り組みやリサイクルの工程や使い道、環境保全の必要性について説明していただいたり、珠洲市等にある施設見学を通して環境保全への意識を高める働きかけがあるとよい。空き教室などのゴミ分別作業を通して、リサイクルの仕方を指導し学ばせる。</li> </ul>
		⑦ 学園祭などの校内行事には、生徒一人ひとりが確実に参加できるよう実施プログラムを工夫し、達成感や充実感を得られるようにする。	生徒会行事に参加して A 積極的に参加した B まあまあ参加した C あまり積極的ではなかった D 全く参加しなかった	生徒 A+B 60%以上 前期 34% 後期 48% 評価 ×	保護者 A+B 60%以上 前期 40% 後期 39% 評価 ×	職員 A+B 60%以上 前期 61% 後期 67% 評価 ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会役員が中心となって取り組んでいたが、周りの生徒に理解されにくかった点や全員で協力した取り組みが出来なかった。来年度は2年生だけの行事になるが、意見を集約して全員が活動できる取り組みを考えていきたい。</li> <li>文化祭に進路指導課として、次年度も積極的に関わってきたい。(進路)</li> </ul>

	⑧ 生徒会による挨拶運動や授業開始における挨拶を徹底させる。	高校生らしいしっかりとした挨拶が出来る。 A 良くあてはまる B まああてはまる C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない	生徒 A+B 80%以上 前期 76% 後期 84% 評価 ○	保護者 A+B 80% 前期 76% 後期 71% 評価 ×	職員 A+B 80%以上 前期 95% 後期 71% 評価 ×	・おおむね出来ている生徒が多いと考えるが、なお一層積極的に働きかけたい。
	⑨ 体力テストを通して、体力の向上と健康の保持増進に向けて取り組むことができる。	生徒一人一人が体力の向上と、健康に意識して学校生活を送るきっかけとなった。 A 良くあてはまる B まああてはまる C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない	未実施		職員 A+B 50%以上 前期 56% 後期 64% 評価 ○	
学校関係者評価委員会の評価	<p>(1) 取組の評価について 取組については①から⑨までは良いまたはまあ良いと評価された。 ②の取組にあまり良くないと評価した関係者が一人いた。</p> <p>①頭髪などの基準を明確に保護者に連絡する。継続した指導を続ける事が必要である。PTA保護者も参加させる機会を設ける。</p> <p>②～⑥について、特に意見は出ていないが、厳しい指導を行う必要がある。</p> <p>⑦子供とあまり話し合いがもたれない事が今後の課題である。生徒の好む事柄なども取り入れても良いと思う。行事を生徒にプロデュースさせる。</p> <p>⑧挨拶では部活をする生徒としない生徒の差が大きい気がする。生徒によっては大きな声で挨拶をしてくれる。</p> <p>⑨社会人になったら体力が必要なので続けて指導して欲しい。</p>					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	頭髪服装という現象面だけに視点をあてて指導することは教師への不信感を生む原因となるおそれがある。生徒の心理状態にも配慮しつつ十分な説明・説得を欠かさず、また、生徒・教師間の信頼関係を深めつつ指導の効果をあげていく方策を考えていく必要がある。					

		具体的取組	達成度判断基準	学校全体			分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策）				
3	働く意義を考えさせ、自立をめざすキャリア教育の推進。	①	卒業生や3年生による2年生に対する体験談発表会を実施し、在校生には職業観を養い、また3年生には自己表現力を身に付けさせる。	卒業生や3年生の体験談を聞いて進路に参考になった A 良く当てはまる B まあ当てはまる C あまり当てはまらない D 全く当てはまらない	生徒 A+B 70%以上 前期 44% 後期 67% 評価 <input checked="" type="checkbox"/>	/	職員 A+B 70%以上 前期 24% 後期 50% 評価 <input checked="" type="checkbox"/>	・今年度の「ようこそ先輩」は、これまでの中で最も良かったと思うが、アンケート結果の数字に驚いている。(進路)			
		②	若い先生(普通高校の出身者)による生徒に対する体験発表会を実施し、専門高校の良いところ語ってもらい、生徒が自分の将来を見据えて、目的意識を持って高校生活を送ることの大切さを知る。	先生の話聞いて専門高校や本校の良いところが理解出来た。 A 良く当てはまる B まあ当てはまる C あまり当てはまらない D 全く当てはまらない	生徒 A+B 50% 前期 39% 後期 45% 評価 <input checked="" type="checkbox"/>		職員 A+B 50% 前期 67% 後期 70% 評価 <input type="checkbox"/>		・生徒と比較的年齢に近い先生に依頼し、専門高校の良さを話してもらい、普通高校にはない専門高校の特長を知り、今後の進路を考える良いきっかけになった。また、3学期末考査の授業時間に、ベテランの先生も含め、高校時代に話などをしていただき、興味を持って聞く生徒が多かった。(進路)		
		③		与えられた課題作文を全て書くことが出来た A 良くあてはまる B まああてはまる C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない	生徒 A+B 70%以上 前期 44% 後期 72% 評価 <input type="checkbox"/>		職員 A+B 70%以上 前期 22% 後期 37% 評価 <input checked="" type="checkbox"/>			・全ての行事について作文を書かせることが出来なかった。珠実祭やインターンシップなど大きな行事については書かせることができた。	
		④	インターンシップを通して、健全な職業観・勤労観の育成を図り、勤労の意義を考える事が出来る。	インターンシップの実習を通して、職業観意識の喚起が促され、進路決定の参考になった。 A 良くあてはまる B まああてはまる C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない	生徒 A+B 85%以上 前期 84% 評価 <input checked="" type="checkbox"/>		職員 A+B 70%以上 前期 56% 後期 33% 評価 <input checked="" type="checkbox"/>				・インターンシップの効果は個々に相違はあっても、貴重な体験である。次年度は極めて厳しい就職戦線が予想され、「学校行事」の中で計画的に実施するインターンシップから、自らの進路決定のためにも(ミスマッチの解消も含め)積極的に取り組ませたい。(進路)
		⑤	人間関係形成能力を育成するために、聞く力、考える力、話す力を様々な機会や学校行事を通して養う。	学校生活の中で他としっかりとコミュニケーションできた。 A 良くあてはまる B まああてはまる C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない	生徒 A+B 70%以上 前期 40% 後期 45% 評価 <input checked="" type="checkbox"/>		保護者 A+B 70%以上 前期 53% 後期 57% 評価 <input checked="" type="checkbox"/>				
学校関係者評価委員会の評価		(1) 取組について 取組については③と⑤にあまり良くないと答えた関係者がいる。 (2) ①先輩達の体験談はとても良い。 ②若い先生だけではなく、経験豊富な先生にも体験談を話してもらえればよい。また、保護者の前でも発表すればよい。 ③作文を書かせることは社会に出てから大変役立つと考えている。 ④今後3年時でもインターンシップの体験先を与えて欲しい。 ⑤生徒達がコミュニケーションとれるようなイベントなどを考えてみてほしい。また、いろいろな機会話し合いの場を持って欲しい。									
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		先輩や社会人・先生方の体験談を聞く機会やインターンシップ体験自体は、生徒の受け止め方に程度の差はあるものの、生徒にとって参考になっているはずであり、具体的取組(評価項目)の設定の仕方も含めて、さらなる改善を図っていくべきであるとする。									

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	学校全体			分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策）
4 地域の文化の創造に貢献する多様な教育活動の推進。	① 「珠洲の実商店」の活動をこれまで以上に積極的にいき、地域の活性化に貢献する。具体的には、4～5種類の定番商品を決め、新商品の開発は2種類に絞込む。全員が最低1回は販売実習をするので、販売時を中心にマナーの指導にも力を入れたい。	必要なマナーを理解し、販売実習の場で役立てることが出来た。 A 良く当てはまる B まあ当てはまる C あまり当てはまらない D 全く当てはまらない	生徒 達成 評価 ○			・珠洲の実商店の活動は地域に定着しており、いろいろなイベントからの参加要請にも積極的に行動している。年度初めに外部講師を招いて、マナー講習を実施し、販売実習に役立てることができた。
	② 生徒一人ひとりの意識を高めるため、各クラスにプランターを割り当て、年間を通して世話をしてもらおう。花の世話により心豊かな人間性を育む事を狙っている。花が咲いたら地元の商店街や公共機関に並べさせてもらう。	1年間に割り当てられたプランターの世話を A 良くできた B どちらかと言えばできた C どちらかと言えばできなかった D 全くしなかった	生徒 A+B 50%以上 前期 16% 後期 11% 評価 ×			プランターや花いっぱい運動での水やり作業が特定の生徒や職員に負担がかかり、全員で取り組むことが出来なかった。
	③ 学校の情報の発信を進める	学校の様子がわかる。 A 良く当てはまる B まあ当てはまる C あまり当てはまらない D 全く当てはまらない	生徒 A+B 60%以上 前期 26% 後期 29% 評価 ×	保護者 A+B 60%以上 前期 72% 後期 67% 評価 ○	職員 A+B 60%以上 前期 65% 後期 60% 評価 ○	・クラス通信、珠実新聞、PTA会報などが保護者向けに出された。生徒はあまり関心を持っていないが、保護者においてはよくわかると答えた生徒が70%あまりであり、情報の発信がある程度出来ていたと思われる。来年度は最後の年になるので、内容については互いに内容が重複しないように各課と話しながら十分精査し作成する。
	④	アクセスカウンターが年平均で A 一月500以上 B 一月350以上 C 一月200以上 D 一月200未満	4月 931 5月 816 6月 956 7月 917 8月 521 9月 474	10月 539 11月 503 12月 401 1月 453 2月 456	アクセスカウンター数 B 350以上 評価 ○	・当初設定した目標は達成したのでそのまま継続して行う。目標としていた1ヶ月に1回の更新も十分ではなかったため、各課からHP作成の為の原稿提出の協力をもらい、早い時期での更新をしていく。
	⑤ オープンスクールや地域のボランティア活動に積極的に参加し、生徒自ら他と交流する事が出来る。	地域のボランティアに、自ら積極的に参加した。 A 良く当てはまる B まあ当てはまる C あまり当てはまらない D 全く当てはまらない	生徒 A+B 60%以上 前期 17% 後期 22% 評価 ×	保護者 A+B 60%以上 前期 32% 後期 29% 評価 ×	職員 A+B 60%以上	
	⑥ 保護者が主体的に企画運営し魅力ある取組みをおこない、PTA活動の活性化を進める。また、活動をHPや学校便りなどで連絡する。	保護者の会合や各種行事への参加者が A 50%以上である B 30%以上である C 10%以上である D 10%以下である		保護者 A+B 30%以上 前期 44% 後期 37% 評価 ○		・PTAへ学校からの案内をしっかりと持って帰る指導を担当を通して行った。 ・思ったより参加者が少なかった。保護者が参加しやすいように日曜日や夜間の開催も行ったが思ったようにのびなかった。生徒が学校から家庭へ案内を持って行かない事が上げられる。
学校関係者評価委員会の評価	(1) 取組について 取組については①から⑥まではほぼ全員が、良いまたはまあ良いと評価した。②であまり良くないが一人いた。 ①珠洲の実商店が認知不足で地域に密着性がない。積極的な取組をして欲しい。販売を通して相手の気持ちを考える。表情を伺うということで大変必要なことであり、また、販売実習を通して物を売る楽しさや難しさを知って欲しい。 ②責任を持たせることは大切なことである。ただ、生徒によって得手不得手があることを配慮してほしい。 ③携帯のホームページを保護者にもっと知ってもらうことが必要である。保護者への情報発信は保護者懇談会時など確実な方法で行えばよい。 ④情報化の時代なので良いと思う。 ⑤大変すばらしい取組であるが、参加する生徒が少ない。何か対応を考えればよい。また、今後ボランティア思考が必要な時代なので一人一人が思いやりを持つことが必要。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	学校からの情報発信力に関して、まだまだ改善すべき点があることが指摘されたものと受け止めている。「珠洲の実商店」のかつどうやプラスバンド夫の活動等について、より一層の情報発信が必要であると考えている。					